

きゆう か ご しまぼうせきじよ ぎ し かん

旧鹿児島紡績所技師館（建造物）

か ご しまぼうせきじよあと

鹿児島紡績所跡（史跡）

【所在地】 鹿児島市吉野町磯9685-15
【種別】 国指定重要文化財（建造物）、国指定史跡
【指定年月日】 昭和37年6月21日建造物指定、昭和34年2月25日史跡指定



旧鹿児島紡績所技師館は、鹿児島藩が建設した鹿児島紡績所（日本最初の洋式紡績工場）に招かれたイギリス人技師7名の宿舍として、慶應3（1867）年に建設された。幕末から明治初期における洋館として貴重な建造物である。通称「異人館」と呼ばれている。

建物は、木造2階建て、桁行18.18m、梁間18.18m、建築面積342.778㎡、延床面積685.556㎡、屋根は方形造りで瓦葺き、白ペンキ塗りであった。玄関は、正面中央部に突出した八角形（半分）で、内部はホールになっている。

間取りは、1階が南北中廊下となり、中央に階段があり2階へ通じる。1階は周囲に石畳のバルコニーをめぐらすアーケードとなり、内側に4室がある。2階は、中廊下をはさんで3室となっており、周囲は窓付きの回廊がある。

明治17（1884）年に、鶴丸城跡に鹿児島県立中学造士館が建設されたときに、校舎の一部として移築されたが、昭和11（1936）年に現地に再移築されている。

また、平成22（2010）年に隣接地の発掘調査を行ったところ、鹿児島紡績所本体の基礎となる部分が遺構として確認された。そこで、平成25（2013）年に史跡の範囲を拡張し、名称を「鹿児島紡績所技師館（異人館）」から「鹿児島紡績所跡」に変更した。

<参考> 「鹿児島紡績所」

慶應3（1867）年、島津忠義が磯に設立し、イギリスから購入した精紡機、開綿機、打綿機、梳綿機などをおき、当時職工は男女200人、一日10時間就業して1日、約48貫の綿糸を紡ぎ、白木綿、縞類を織った。その後、この機械の一部は泉州堺の島津綿糸場に移され、やがて大阪を中心とする紡績業発展の基礎となった。鹿児島紡績所は、明治4（1871）年に商通社と変わり、その後、様々な変転を経て、明治30（1897）年に閉鎖された。

